

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月14日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05387

研究課題名(和文)西アフリカにおける感染症対策と生権力の複数性に関する人類学的研究

研究課題名(英文) Multiple Biopowers: An Anthropological Study on Infectious Disease Prevention Projects in West Africa

研究代表者

浜田 明範 (Akinori, Hamada)

関西大学・社会学部・准教授

研究者番号：30707253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ガーナ共和国南部のカカオ農村地帯における感染症対策を事例に、西アフリカにおける感染症対策が、どのような人や物の配置を伴いながら実施されており、そのような人や物の配置が、看護師やボランティア、乳児の母親といった複数の立場の人々の行為をどのように統御しているのかについて検討した。その結果、入念に準備された配置が異なる立場の人々の行為に整合性を持たせているケースと、必ずしもそうになっていないケースがあることが明らかになった。また、薬剤やワクチンといった医療品の空間的な配置だけでなく、ドキュメントを用いて一定のリズムを作り出す時間的な配置が重要な意義を持っていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、グローバルヘルスの現場における生権力の複雑な作動形態を明らかにした点大きい。特に、(1)公衆衛生プロジェクトが、どのような物をどのように配置することによって異なる立場の人々の行為を同時に導こうとしているのか、(2)その際、身体・病原体・薬剤・人々の日常生活が要請する異なるリズムの時間性がどのように調整されているのかの二点は、既存の研究に新しい論点を付け加える大きな意義を持っている。社会定義としては、グローバルヘルスの実態についての具体的な現状とその問題点を解明したことで、今後、プロジェクトを修正するための知見を提供しうるものとなっている。

研究成果の概要(英文)：This study explored how health-promotion projects against infectious diseases deploy people and things, and how these deployments affect the actions of various actors such as community health nurses, community volunteers, and mothers of newborns. This research uncovered how although deliberately afforded deployments effectively coordinate these people's actions regarding infant vaccination, there are nonetheless contradictions in the mass administration of ivermectin. At the same time, the study's findings showed that it is not only the spatial deployment of pharmaceuticals that matters; the temporal dimension through documentation is also highly significant. Indeed, the rhythms of the administration of pharmaceuticals and vaccines depend on the skillful coordination of human bodies, pathogens, pharmaceuticals, and the everyday lives of people.

研究分野：医療人類学

キーワード：生権力 感染症 グローバルヘルス 複数種 薬剤 時間性 医療人類学 ガーナ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の人文・社会科学において、1970年代にミシェル・フーコーが提起した生権力という概念をめぐる議論が活性化している。生権力が厳密に何を意味するのかについてはフーコー自身を含めて必ずしも一貫しているわけではないものの、多くの論者は、生権力が(a)殺す権力というよりは生かす権力であり、(b)個々人とともに集団としての人口を対象としており、(c)規律的な権力というよりは調整的な権力であることを強調している(e.g. Rabinow and Rose 2006; 檜垣(編) 2011)。

現在のガーナ南部における生物医療の主要な課題はいかに感染症と対峙するかにある。臨床では、マラリアや感冒、腸チフスといった感染症の治療が行われている。公衆衛生では、結核やHIV/AIDSへの対処とともに、ワクチンの接種やイベルメクチンの集団投薬が行われている。近年は、エボラウイルス病についての情報提供活動に力が入られたこともあった。これらの実践において、ガーナ南部の生物医療は、(a)人々を生かすことを目的としており、(b)個々人と同時に人口集団への効果を重視するという二つの意味で、生権力が具体的な制度として現われる典型的な場のひとつとなっている。

文化人類学における生権力研究では、生権力の複数性への関心が高まっている。筋内が指摘するように、生権力研究では、人口がどのように<単一方向>に導かれているのかを強調する傾向があるが、そこには<別の方向>へ向かう回路が必ず残されている(筋内 2013; Biehl 2005)。生権力について分析する際には、人口がただひとつの方向に導かれているという論点先取りの結論を早急に導くのではなく、具体的なモノ・行為・制度・人の配置が人々を複数の方向に同時に導きうる可能性に留意していくことが肝要である。

本研究の研究代表者は、ガーナ南部における生物医療が同時に複数の方向に人口を導いていることを繰り返し明らかにしてきた(e.g. 浜田 2015a)。また、2013年度以降、当該地域の結核対策に焦点を当て、本応募課題の導入に当たる研究を遂行しているが、そこでも、結核対策がいかに人々の行為を同時に複数の方向に導いているのかを明らかにしてきている(浜田 2015b)。

参考文献

Biehl, João, 2005, *Vita: Life in a Zone of Social Abandonment*, University of California Press/ 浜田明範, 2015a, 『薬剤と健康保険の人類学』, 風響社 / 2015b, 『書き換えの干渉 : 文脈作成としての政策、適応、ミステリ』, 『一橋社会科学』第7巻(別冊) pp. 125-150 / 檜垣立哉(編), 2011, 『生権力論の現在 フーコーから現代を読む』, 勁草書房 / Rabinow, Paul and Nikolas Rose, 2006 'Biopower Today', *BioSocieties* 1: 195-217 / 筋内匡, 『第三種の政治に向かって - 人類学的生権力論の一つの試み』『思想』1066号(2013年2月) 244-263頁。

2. 研究の目的

本研究では前項で述べた研究動向を念頭に置きながら、研究代表者が本課題を実施する以前に行ってきた研究を進展させ、感染症対策における生権力の2つの意味での複数性、すなわち、これまで取り組んできた<同時に複数の方向に人々を導いている>という意味での複数性に加えて、<異なる立場の人々に異なる働きかけを同時に行っている>という意味での複数性に着目する。このことにより、西アフリカにおける生権力の複雑な作動形態を具体的な事例に基づいて明らかにし、人類学における生権力論を深化させていくことが本研究の目的である。具体的には、ガーナ共和国南部のカカオ農村地帯を対象に、感染症対策において(1)どのような統治実践がどのように互いに干渉・調整しながら展開しているのか、(2)それぞれの統治実践が世界規模での市場や科学技術、政策の展開とどのように関係しているのか、(3)どのように「生かすべき者」と「死ぬに任せる者」を結果的に選別しているのか、の三点について明らかにしていく。

3. 研究の方法

(1) 上記の目的を達成するために、本研究ではガーナ南部のカカオ農村地帯における総計約3か月の現地調査を実施した。現地調査では、(1)国家レベルでの計画がどのように郡レベル、村落レベル、個々の実施者と伝達されており、そのためにどのように人や物の配置が行われているのか、(2)地域保健看護師が現地で暮らす人々の行為をコントロールするために、どのような物をどのように用いることによって自分たちの行為をコントロールしているのか、(3)感染症対策のために必要とされる配置と人々が日常生活を送るために有用な配置のあいだにどのような葛藤があるのかといった点に特に焦点を当てた。

(2) 本研究課題と関連の深い、グローバルヘルスの人類学と科学技術の人類学に関する文献研究を行った。これと関連し、オスロ大学からウェンゼル・ガイスラー氏とルース・プリンス氏を招聘し、日本からの10名の研究発表者とともに How Do Biomedicine Shape Life, Sociality and Landscape? というタイトルの国際シンポを実施し、そのプロシーディング集を2017年に出版した。また、アネマリー・モルの『多としての身体』の共訳プロジェクトに参加し、2016年に出版した。

4. 研究成果

(1) グローバルヘルスにおける時間性と主体性

研究の方法(2)で言及した国際シンポジウムを開催したことにより、グローバルヘルスの人類学の新たな潮流が明確になった。いわゆる開発途上国についての生物医療についての人類学的研究では、生物医療の実施を可能にする医療者や薬剤等の事物がどのように空間的に広がっていくのか、それによって当該地域でどのような現象が起きるのかに焦点が当てられることが多かった。それに対し、近年の研究では、生物医療やそれを普及させるためのプロジェクトにまつわる時間性に注目する傾向が強くなっていることが明らかになった。同時に、当該地域にプロジェクトが入ってくることが、当該地域で暮らす人々のどのような反応を引き出し、それによってどのような形での主体化を促しているのかに関する研究の蓄積がなされてきていることも明らかになった。これらの成果は、「5. 主な発表論文等」の〔図書〕に所収の複数の論文で議論されているほか、〔雑誌論文〕やの議論にも活かされている。

(2) 感染症対策による事実の生産

アネマリー・モルの『多としての身体』(〔図書〕)で議論されている重要な知見のひとつに、特定の実在の存在はそれを見出すための実践や手続きと不可分であるというものがある。このようなモルの実行(enactment)に注目するアプローチは、もっぱら語りに注目してきた医療人類学に大きなインパクトを与えている。本研究では、このモルのアプローチを念頭にガーナにおける公衆衛生プロジェクトを分析することにより、当該地域の人口におけるオンコセルカ症の存在がオンコセルカ症の流行を予防し、症状の進行を妨げるためのイベルメクチンの配布とその実施状況を書き留める記録実践(国家レベルでのフォームの作成・管理とコミュニティレベルでの確認・記入)によって認知され、確認されていることを明らかにした(〔雑誌論文〕)。

(3) 複数の時間性の取りまとめ

研究成果の(1)で述べたように、近年のグローバルヘルスの人類学の焦点のひとつに時間性に対する注目がある。本研究では、この点について複数の公衆衛生プロジェクトがどのように服薬に関する時間性を統御しようとしているのかについて検討した。結核治療においては患者が毎日おなじ時間に薬剤を飲み続けることが、オンコセルカ症対策ではすべての人が半年に一度薬剤を飲むことが、ワクチン接種については異なるタイプのワクチンを複雑に決められたやり方で摂取することが求められていた。これらは、部分的には、人間の身体と薬剤のあいだに生起する時間性(薬剤を取り込み代謝する身体的时间性)と病原体と薬剤のあいだに生起する時間性(病原体の増殖を妨げる薬剤のもつ時間性)に規定されていた。しかし、同時に、薬剤の接種は、人間が生活するにあたって生起する時間性とも関連していた。これらのことから、公衆衛生プロジェクトにおいては、身体と薬剤の時間性、病原体と薬剤の時間性、日常生活の時間性の3種類の時間性を取りまとめる取り組みが行われていることを明らかにした(〔雑誌論文〕)。

(4) 地域保健看護師の活動リズム

本研究では、前項と関連して、地域保健看護師たちの時間性を取りまとめるための実践として、乳幼児の体重測定が重要な役割を果たしていることも明らかにした。当該地域では、乳幼児に対するワクチン接種は体重測定とともに実施されているが、前者に比して後者の記録はそれほど精密につけられているわけではない。にもかかわらず、看護師たちも乳幼児の母親たちも、ワクチン接種のために集まることを「体重測定」と呼んでいる。このような、体重測定を重視するような呼び方が行われている背景には、どのワクチンをいつ、どういう順番で接種するのが極めて複雑に定められていることがある。このワクチン接種のタイミングを管理するために、地域保健看護師たちは、毎月、決まった週の決まった曜日に決まった場所を訪れるという形で、自分たちの活動のリズムを作り出し、その目的を体重測定としていたのである。これにより、ワクチンの接種し忘れや二重接種といった致命的なミスが回避されていた(〔雑誌論文〕)。

(5) 草刈りと土壌流出の葛藤

本研究を遂行する過程で、感染症対策に求められる景観の作成と日常生活を円滑に営むための景観の作成の葛藤についても明らかになった。マラリア対策においては、それを媒介するハマダラカを培養するたまり水をいかに抑制するかが重要な課題になっている。この課題を解決することをひとつの理由とした実践に、コミュニティにおける草刈りがある。草が茂っている場所に空き缶などが捨てられることによってたまり水ができることを防ぐ必要があるため、コミュニティにおいては各家の居住者が自宅のまわりの草を刈ることが望ましいとされている。一方、当該地域では多くのコミュニティが平地というより斜面に作られていることもあり、住宅地の土壌流出が大きな問題となっている。草刈りは、この土壌流出のひとつの理由であるとも考えられている。つまり、感染症対策が土壌流出を促進してしまっているという認識がある。更にややこしいのは、コミュニティの内部で車を走らせる必要が、土壌流出の抜本的な対策を難しくしているということである。このように、複数の合理性に基づく複数の実践によって、

当該地域のコミュニティの景観が作られており、マラリア対策はその複雑な過程の重要な一部を成していることが明らかになった。この点については、現在、論文の形で成果をまとめているところである。

(6) オンコセルカ対策における問題点の指摘

本研究を実施するにあたって、当該地域で行われているオンコセルカ対策プロジェクトの抱える問題の一端が明らかになった。それは、必ずしも正確な記録がつけられていないことにより、全人口に対するイベルメクチン摂取者の割合が実際よりも高く計算され、また、その計算に基づいてこれまでのプロジェクトの評価と今後のプロジェクトの計画が行われているということである。この点については、今後のプロジェクトの改善につながるよう、現地のプロジェクト関係者に情報提供を行った。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

浜田明範、「存在論的転回とエスノグラフィー：具体的なものの喚起力について」、『立命館生存学研究』、査読無、vol. 1、2018、pp. 21-31

浜田明範、「魔法の弾丸から薬剤の配置へ：グローバルヘルスにおける薬剤とガーナ南部における化学的環境について」、査読有、『文化人類学』81 巻 4 号、2017、pp. 632-650

島園洋介、西真如、浜田明範、「薬剤の人類学：医薬化する世界の民族誌」、査読有、『文化人類学』81 巻 4 号、2017、pp. 604-613

Hamada, Akinori, 'Restyling the Milieu: On Milieu Making Practices around Tuberculosis Treatment Projects in Southern Ghana' In Akinori Hamada and Mikako Toda (eds.) *How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes?* Senri Ethnological Report 143, Refereed, 2017, pp. 141-161

[学会発表](計 11 件)

Hamada, Akinori 'Mass Drug Administration as an Experiment: Distributing Ivermectin in a Rural Town in Southern Ghana' 18th IUAES World Congress, 17th July, 2018, Federal University of Santa Catarina, Brazil.

浜田明範、「実行概念を実行する：アネマリー・モルの enactment という発想について」、『アクターネットワーク理論と社会学研究会』、2018 年 3 月 27 日、早稲田大学

Hamada, Akinori 'Mass Drug Administration as Experiment: Distributing Ivermectin in a Rural Town in Southern Ghana' Internation Workshop "Vital Experiments: Living (and dying) with Pharmaceuticals after Human", 24th February 2018, Kyoto University, Japan

浜田明範、「「存在論的転回」とエスノグラフィー」、『第 74 回神戸人類学研究会』、2017 年 5 月 12 日、神戸大学

浜田明範、「化学的環境とイベルメクチンの配置：ガーナ南部におけるグローバルヘルスの一側面」、『第 223 回アフリカ地域研究会』、2016 年 12 月 15 日、京都大学

浜田明範、「ポスト多元的民族誌のための覚書」、『立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト現代社会エスノグラフィ研究』、2016 年 9 月 19 日、立命館大学

浜田明範、「グローバルヘルスにおける薬剤の配置 ワクチン接種のリズムと『民族誌的知識』」、『第 16 回アフリカ研究自主セミナー』、2016 年 7 月 9 日、関西大学

浜田明範、「多重的な再分配：ガーナ南部における再分配経済と国民健康保険について」、『第 15 回社会政治研究会』、2016 年 5 月 13 日、名古屋大学

Hamada, Akinori 'Restyling the Milieu: On Milieu Making Practices around Tuberculosis Treatment Projects in Southern Ghana', "Japanese Scholars Afternoon", 29th February 2016, University of Amsterdam, Netherland

Hamada, Akinori 'Interference in a Milieu: On Multiple Governments of Multiple Actors Around Tuberculosis Treatment Projects in Southern Ghana', International Symposium "How Do Biomedicines Shape Life, Sociality and Landscape?", 27th September 2015, National Museum of Ethnology, Japan

浜田明範、「西アフリカのカカオ農村地帯における生物医療と感染症」、『海外学術調査フォーラム』、2015 年 6 月 6 日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

[図書](計 3 件)

前川啓治・箭内匡・深川宏樹・浜田明範・里見龍樹・木村周平・根本達・三浦敦 『21 世紀の文化人類学会：世界の新しい捉え方』、新曜社、2018、381 (99-132)

Akinori Hamada and Mikako Toda (eds.) *How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes?* Senri Ethnological Report 143, National Museum of Ethnology, Japan, 2017, 211 (9-37, 205-234)

アネマリー・モル 『多としての身体：医療実践における存在論』、浜田明範・田口陽子訳、水声社、2016、286

〔産業財産権〕
出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。